

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 31 号

平成23年 4月 1日



所蔵作品紹介

(30)

「いものそじん 鑄物祖人」
塩崎 逸 稜 作

(原画 幅 41 cm × 長さ 120 cm)
(軸装 幅 55 cm × 長さ 200 cm)

同窓生ギャラリー特別展

12月16日～1月10日

現代の名工

般若茂雄(宗勘)洋燈作品展

般若茂雄(宗勘)氏は、高岡銅器を発展させたという強い思いから、現代生活に合った実用的商品として室内照明器具(洋燈)を約10年間に亘って制作されてきました。昨年11月には氏の永年の業績と卓抜した技能により、厚生労働省から「現代の名工」として認定され、表彰を受けておられます。これを記念し、当美術館では洋燈30点を特別企画として展示いたしました。

氏の作品である洋燈の傘部は、まず肉厚約5mmの半球体を高岡銅器の伝統的技法である双型鑄造法で制作し、その内面と外面をさらに旋削し肉厚約2mmまでに加工されています。その後四季の花鳥や唐草等の模様を繊細な透かし彫りで施し、内側には五箇山和紙が張られています。また、支柱と傘部の表面は、高岡銅器伝統の着色法(焼付け・煮込み法)で処理してあり、大変優美な仕上がりとなっております。さらに、台座は庄川町木工の挽物を使用され、県内の伝統工芸を巧みにコラボレートされた洋燈として完成されています。

期間中は館内の照明を落として展示いたしました。来館者の方々も仄かな灯りの醸し出す幽玄な雰囲気にも包まれ、匠の妙に心酔されておられました。



般若ご夫妻と作品

青井中美展大賞受賞作品展
「ヒロシマ・アピールズ」ポスター展

1月22日～2月20日

●青井中美展大賞受賞作品展

昨年には第17回展を迎え、中学生の美術公募展として広く知られるようになりました。本校が工業高校としてのみならず、広く芸術・文化の発信校として若い人たちに認識していただけることは喜ばしい限りです。

さて、この中美展の最高賞は「青井大賞」ですが、例年、大賞受賞作品は美術館に寄贈して頂いています。今回は、これまでの大賞作品17点と各回の図録を一堂に展示しましたが、降雪によりやや入館者が少なかったようです。それでも、受賞者の方々は懐かしい作品との久々の対面に、大変喜んでおられた姿が印象的でした。



作品を見学する生徒達

●「ヒロシマ・アピールズ」ポスター展

JAGDA(社団法人日本グラフィックデザイナー協会)は広島国際文化財団と共同で、1983年から1989年まで毎年、会員の代表1名がポスター「ヒロシマ・アピールズ」をボランティアで制作し、国内外に向けて平和を希求する活動を行ってきました。広島被爆60周年を機に、2005年には活動を再開されています。この世界的にも著名なデザイナーによるオリジナルポスター10点は、平成20年にJAGDA富山地区より本校に寄贈されたもので、デザイン分野の収蔵品中でも貴重な存在となっております。各作品も多様な表現に、観覧者もしばし足を止め、「ヒロシマ」への思いを馳せておられるようでした。



「一羽の白い鳩」
田中一光

各科最優秀作品

に役立てたいと思いましたが、本当に運転している感覚に近づけるため「スピード調整」・「変速ギア」・「ハンドル感覚」、そして「運転席からの風景」にこだわり、工夫を凝らして製作しました。実際には、私達の知識や加工技術の未熟さのため、始めの夢や計画からは程遠い作品となりました。卒業課題の製作を通して多くのことを学びましたが、友達や先生方とともに努力し工夫を重ねた日々が、今は大変懐かしく思い起こされます。この貴重な体験をこれからの生活に生かしていきたいと思っています。

機械科

「全自動工芸焼機の製作」



電子機械科

「切り粉専用掃除機の製作」



電気科

「自動車シュミレーターの製作」



建築科

「数寄屋風中門の製作」



工芸科

「鞆柄漆器」



デザイン科

「パッケージ(リップクリーム)の提案」



常設展Ⅲ期

12月16日～2月20日

「絵画・工芸(木工)・デザイン」

絵画は、正月にふさわしい日本画として中島秋圃作「唐獅子図」、郷倉千鶴作「梅図」、越智正治作「椿図」の3点を、また、工芸では木工作品を中心に、雲木彫額である土居覚洞作「鹿苑」の他、秦紹世、竹内久遠など明治期から大正期にかけて活躍された方々の小品彫刻35点を展示しました。来館者からは、当時の写真に徹した彫りの技量の高さに驚きの声が聞かれました。また、本展の異色な展示品として、永らく御木本真珠店に勤務し役員を務められ、皇室・宮家の王冠・調度品の宝飾をデザインされた小竹幸作氏の作品8点を並べました。これらは、昭和45年9月、宝石デザイン50年を記念して旧高岡博物館で展覧会を催された折に本校へ寄贈されたものです。



小林幸作「ティアラのデザイン」

常設展Ⅳ期

3月12日～4月10日

「掛軸・彫刻・陶磁器」

軸装品では、大正時代の卒業制作作品である「少女の図」、「山羊と天平婦人図」、また本校草創期の教員で四条派の畑仙齡筆「女人と鹿」、「宝珠」を展示。他に尾山常吉元副校長揮毫による書「尚美」など計9点を展示しました。陶磁器では、「鍾馗と遊女、東方朔人物、文福茶釜、蝦蟇・鉄拐仙人、遊女3体」は清水焼の人物形ですが、当時の風俗を生きたと表現した作品であります。今回初公開した「世界民族風俗博多人形」も興味深く鑑賞していただけたものと思います。他に「九谷焼観世音像」、「瀬戸焼普賢菩薩像」、「ヨーロッパ陶器の花瓶、九谷、伊万里の磁器など22点を展示し大変好評でした。



「鍾馗と遊女」

新収蔵作品展

3月12日～4月10日

1994年以降2010年までに寄贈された新収蔵作品の内、22点を展示しました。なかでも東京芸大名誉教授米林雄一氏(昭和35年本校卒業)の恩師である川邊外治作「小境の夏」、畑仙齡(創校期に奉職の教え子である塩崎逸陵筆「鑄物祖神」、帯展漆芸の部に県内で初めて入選された土田宗真作「乾漆輪花朱漆盤」など、乾漆作品3点を飾りました。また、蛸型鑄造を継承する須賀一族の初代翌月眞松園から3代松園 正紀 七郎各氏の作品5点を展示しました。来館者は美術分野で活躍されている本校卒業生の層の厚さと多彩さに改めて感心され、それぞれの力作に魅入っておられました。



寄贈作品の紹介

◆般若茂雄 作

(S20年金工科卒)

「金箔押幾何紋祥龍洋燈」
作者寄贈(高岡市在住)



◆中谷 藍 作

(高岡西部中学校3年)

「景色」
作者寄贈(高岡市在住)



◆川邊外治 作

「小境の夏」

川邊照美氏(作者長男)
(砺波市在住)より寄贈



表紙作品解説

「鑄物祖人」

塩崎 逸稜 作
(1884～1974)

塩崎逸稜は本校髹漆科で畑仙齡に日本画を学び、明治35年東京美術学校日本画科に進学し寺崎広業に師事。大正4年以降文展、帝展に10回入選を果たしている。昭和23年に日本美術協会常任委員となり、作品は宮内庁買い上げ2回、伊勢神宮には大作「五ヶ条御誓文」が収蔵されている。表紙作品は、銅鏡を手に毅然と火炎の中に立つ「鑄物祖人」が描かれている。古事記では、天照大神の岩戸隠れの段にも名前を連ねている「天津麻羅(あまつはら)」と思われるが、一神の名ではなく鍛冶集団の総称ではないかとする説もある。

編集後記

永らく本校機械科の教員として奉職(通算28年)していたことが縁で、昨年4月より新館長として就任致しました。美術品展示についての専門的な知識はありませんが、趣味で茶の湯に携わっており、その中で培った感覚で作品を選定し、工夫した展示を心掛けて参りました。実際に関わってみますと、収蔵庫にある作品全てが私に語りかけてくるような気が致します。それ故、一点一点の作品の持ち味や特徴がもつとも生かされる展示に心を配り、観覧して頂く皆様にもご満足頂けるよう努力しております。皆様方には当美術館を尚一層ご愛顧いただきましますとともに、旧に変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げます。(柴田 秀紀)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 〒933-8518 高岡市中川一丁目二〇
TEL 〇七六六二二一六三〇
FAX 〇七六六二二一六三一